

医療倫理

Medical Ethics

生命：A1-01111MS

素養科目 1年／前期 1単位 必修科目

科目責任者 川北 晃司(倫理学研究室)

■教育目的

現代における医療倫理の中心には、患者と医療者間の良好な意思疎通と情報提供がある。現代の医療倫理は患者の権利、とりわけ自己決定権を説いており、医療系以外の学生、一般の方々にも役立つことを理解する。誰もがいずれ患者となりえて、医療の世話になり、終末期を迎える。医療倫理の問題は他人ごとではなく、自分自身が将来直面せざるをえない課題であることを理解する。【卒業認定・学位授与の方針:SD-④】

■学習到達目標

1. ヒューマニズム(人間の尊厳)及びその根拠・理由を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
2. 医療倫理規範及び倫理学理論を理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)
3. 医薬品にかかわる開発職・研究職・営業職のプロフェッショナリズムを理解し、適正に判断、行動できる(知識、態度)

■準備学習(予習・復習)

予習：日頃から医療とその倫理に関連すると思われるニュースに注目し、可能ならば新聞紙を読む。(20分以上)

復習：授業の要点をチェックするとともに、気になった箇所を自分で調べてみる。(30分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	備考・SBOコード
1	導入	自己紹介、ルーブリック紹介、最近の医療倫理関連ニュース例	
2	医療倫理の古典(1)	ヒポクラテスの誓いの意義と限界など	
3	医療倫理の古典(2)	ニュルンベルグ綱領、WMA ジュネーブ宣言、WMA ヘルシンキ宣言、WMA リスボン宣言など	
4	倫理学理論・生命倫理原則(1)	倫理学理論と生命倫理4原則の意義と限界、professionalism、インフォームド・コンセント及びアセント	
5	倫理学理論・生命倫理原則(2)	人間・個人・生命の尊厳とは何か、尊厳の根拠	
6	医療倫理の問題状況(1)	守秘義務とその例外、QOL の意義と問題など	
7	医療倫理の問題状況(2)	妊娠中絶と終末期医療	
8	技術者倫理	engineering ethics ビデオ視聴など	
9	日本におけるハンセン病医療の歴史	「ハンセン病問題～過去からの証言、未来への提言」(法務省人権啓発ビデオ 2016 年)視聴など	
10	研究活動の倫理	FFP、QRP、parafrad の回避	
11	parafrad のもたらす害	水俣病事件から何を学ぶか	
12	様々な学会と企業の倫理綱領	期待される研究者・開発者像	
13	MR の倫理	期待される MR 像	
14	近年における「薬害」訴訟例	制ガン剤イレッサによる奏功及び事故事例	
15	まとめと補遺		

■授業分担者

川北 晃司(No.1～15)

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：質問があれば個別に受け付け、解説・説明をする。

成績評価方法：期末試験(100%)で評価する。

■教科書

指定しません。